

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 ー)

事業所番号	0673000550		
法人名	朝日ぶなの木会		
事業所名	グループホームかたくり荘		
所在地	山形県鶴岡市熊出字東村157-2		
自己評価作成日	平成24年 1月 6日	開設年月日	平成16年 2月 1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年度は帰宅願望者の対応について外部・内部研修ともに力を注ぎ分析・実施・共通理解を深めてまいりました。理念の見直しを行い「安らぎのある生活を目指しつつも笑顔でその人らしく過ごしていけるよう」職員も心にゆとりを持ちながら家族・地域の一員として暮らしております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先 <http://www.kaigo-yamagata.info/yamagata/Top.do>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3-31		
訪問調査日	平成 24年 2月 14日	評価結果決定日	平成 24年 3月 14日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人理念「和(なごみ)」「温(ぬくもり)」「安(やすらぎ)」「仁(おもいやり)」を、かみくだき見直し、人間らしく自分の出来る事は、ゆっくりでもしてもらい、その時を楽しく過ごせるよう支援しています。事業所の取り組みは地域でも受け入れられ、認知症への理解も深まり幼稚園児の事業所訪問体験へと繋がっています。帰宅願望も地域や家族への想いからと自宅方面へのドライブなども計画実行し、生涯地域の一員として暮らす事を大切に考えている事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員間での話し合いから理念を作成し地域密着型サービスの意義を踏まえ日々生活支援にあたっている。	毎日の暮らしの中で安らぎと温もりのある暮らしを築き、一人ひとりのペースで無理をせずその時を楽しく暮らせるよう支援している。職員も行事を通して交流を持ち続け、いつまでも地域といっしょに生活していける事を理念の遂行と位置づけている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	保育園訪問・保育園児来荘・地区運動会参加など交流を継続し、社会とのつながり、理解が深まっている。	地区の運動会参加、保育園児の来訪で歌を歌い、手作りお面のプレゼントをして楽しく過ごしている。一年がかりで鶴の恩返しの紙芝居を作成し、市の文化祭に出品している。また地域の集まりで寸劇などを披露し、認知症の理解を得られるよう努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	昨年度までは「ふれあい教室」という形で地域を回りながら、認知症の理解の啓蒙活動を行っている。今年度組織が変わり、保育園訪問などで認知症の方の理解や支援の在り方を実際体験して頂いている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的な開催にてホームの現況、ヒヤリはっと等事例報告を行っている。市の職員、メンバーから意見や情報を頂きながらサービス向上に取組んでいる。	運営推進会議は定期的にかかれその時々議題を提示し、マンネリ化しないように努力している。職員の中からも副主任が参加して、内容は記録の回覧で共有し外部からの気付きを大切にしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進メンバーに市の職員も参加しているため、様々な情報交換ができています。困った時にはすぐに対応していただける関係にある。	事業所敷地内のぼんぼ温泉に、朝日地区福祉課の支所があり、相談を受けてもらい、馴染みの関係を築いている。介護相談員の来訪も月2回あり利用者も心待ちにしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境と利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	玄関にはオルゴールを取り付け、随時人の出入りを確認したり、所在確認を行っている。やむを得ず身体拘束を必要とする場合は家族に説明し書面にて同意を得ているが、実際拘束は行っていない。	玄関の施錠はなくオルゴール(エリーゼのために)で出入りを察知している。入居時に必要に応じて安全を守るために行うこともあり得る事を説明、理解を求めている。一年に一度会議の時に研修も行き、常に利用者を確認しながら暮らしの安全を保っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム会議で研修を行い、虐待防止に努めている。デイご利用者様は入浴時にボディチェックを行っている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	生活保護受給者ご利用者様を通して随時支援している。昨年度課内研修にて後見人制度勉強会を実施。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	実施している。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進メンバーの家族より意見を頂いたり、個々のケース会議などでも意見を求め支援に反映するよう努めている。	運営推進会議で家族代表からの意見や、面会時の話を集約して、ケース会議で共有し早急に電話で回答している。毎月、生活状況、身体状況、ホームだよりを送り、利用者の暮らしを知らせ家族との信頼関係を深めている。		
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	GH会議や日々の業務の中でも意見を求め、出来る限り職員の意見をくみ取り反映させている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度の取り組みにて各自向上心アップにつなげている。			
13	(7)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部、内部研修には職員レベルに合わせた研修会へ参加を促し伝達研修を行い、実践に繋げる努力をしている。	年間計画の中で、感染症や緊急時対応の研修などに実習を取り入れレベルアップを図っている。法人の中で異動もあり勉強会も各所で行われ、チャレンジ発表会で研修を活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	GH協議会で取り組んでいるスクラム研修(介護技術研修)や交換実習等に参加し他事業所との交流に努めている。	山形県グループホーム連絡協議会の交換実習に参加し、スクラムチャレンジの研修会にて他事業所との交流から職員の意欲をかきたてる事も大きく、スキルアップに役立っている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約時に家族より情報提供して頂きながら、表情や訴えから安心できる関係を築けるよう努力している。日々の会話の中より、何を求めているのかを取り組み、個々に合った支援に心がけている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時に情報収集に努め、月まとめで文章での報告及び、体調変化時には家族と電話連絡を行い信頼関係を保つ。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	該当なし			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様からできる事を行ってもらい同じ時間を過ごし一方的な介護ではなくご利用者様の気持ちを汲み取り共に暮すように心がけている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事への参加呼びかけを実施。また、ホームへ内で生活の様子をケアプラン評価を月1回家族へ知らせている。面会時に情報交換を行っている。家族参加でのケース会議を行っている。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地元ヘドライブに行ったり、サービスを利用している方に会いに出かけ交流を図っている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合うご利用者様同士の軽作業やレクの実施、被害妄想等にて気の合わないご利用者様はトラブル防止に距離を置くような配慮を行い、職員がフォローし支援を行っている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	隣接する施設の知人に会いに出かけたり訪問してもらうなどして交流が続くようにしている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各担当を中心とし、ケアプランの見直し時期に意向把握に努めるようにしている。	利用者のこれまでの暮らしについてアンケートをとり日々の会話の中からさまざまな思いを察知し、家族等の協力を得ながら暮らしの向上を図っている。訴えの困難な方には、職員の笑顔から安心を生み出し不安なく楽しく過ごせるよう支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様から随時協力して頂き話を伺ったり、昔の写真などを提供していただいたり、生活歴などの把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	左記の通り			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	三か月に1回の見直しを行い年1・2回はご家族様、担当職員を含めて意向を確認しながら計画作成している。緊急時には状況に応じ、ご家族様と情報交換しながら作成している。	プラン見直しの時、身体状況を見て家族・医師・看護師の意見を入れて無理がなく現状維持出来るよう気配りしている。状況に応じ作成変更もを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々ケース記録に記入し毎日のミーティングにて情報交換を行っている。申し送りノートにて全職員が共有を図り見直し時期に活用している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 (小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	該当なし			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	体調不良の方が多く外出などが控えめになったが、保育園児の訪問を中心とし入居者全員が楽しめる事ができた。山菜の下処理などしながらそれぞれが季節感を味わった。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族付添での通院時には状況を記入した経過を持参して頂きDr.への情報提供を行う様にしている。また、本人の意見を尊重し家族、Dr.への相談を行いながら対応している。	馴染みのかかりつけ医には家族の協力を得、状況に応じて職員が付き添い支援を行っている。受診時は身体面・様子を看護師が確認し、医師へ適切な情報を伝え、安心して受診できるよう努めている。薬の変化等に留意し、結果は健康管理ノートで共有している。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	健康管理ノートを活用し看護師との情報交換、支援を実施している。体調不良時には隣設の看護師が駆けつけてくれる。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	家族からの情報提供を通じながら状況に合わせた対応を行うようにしている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	左記の通り。家族の意向を伺いながら、かかりつけ医の協力を得て支援していく。	これまでに終末期に近い関わりはないが、状態変化に合わせ、利用者家族等や医療関係者と相談しながら対応方針を共有している。日頃の関わりで食欲低下や身体面での変化に気付けるよう心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内部での研修会に参加して取り組んでいる。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災を中心としているが、地震を想定した訓練も行っている。非常用の防災用具も整えて来た。日々生活の中で、あれこれ想定し避難時の担当職員を確認している。22年度地域との合同防災訓練を行っている。	年2回その他、2年に1回地域との合同訓練や、法人内で月1回防災委員会を開催している。東日本大震災の経験から、防災グッズ中味の再確認や備蓄の見直しをすると共に、緊急時、利用者の所在確認の為に「LEDライト確認押しボタン」を居室の名札の上に設置する等工夫をしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様一人一人に合わせた言葉かけや対応について考え支援している。自己目標にチェックしている。	プライバシー保護や接遇研修を行い「日頃の言葉かけ」を重視し、職員は自己目標を持ち、点検表で確認しながら、日々の関わりで自分の振り返りにしている。利用者の触れられたくない話題等にも配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の会話から行ってみたい所や食べたいものなどヒントを得て、ドリーム活動として実施。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自己決定出来る方は特に自分のペースで生活されている。希望をうまく伝えられないご利用者様も多くいるので表情を見ながら支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族持参の衣類を中心とし、その人らしいアイテムでオシャレを支援している。(帽子、エプロンなど・)			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る事を出来る方にお願ひし、盛り付け、下ごしらえ、食器拭きなど実施している。	好みや、旬の物、ホームの畑で採れた物等を取り入れ1週間毎に献立を作成している。下準備から後片づけ等の得意分野を一緒に行い、また刺身等が好まれ回転寿司に出掛ける事もあり、会話や雰囲気作りを大切にしながら楽しみな物に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重の増減を毎月確認している。栄養が不足になりがちな方には高カロリー補助食品を活用している。状況に応じて栄養士・看護師よりアドバイスをいただいている。体調不良時には食事チェックを行い水分・栄養確保に努めている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一日3回の口腔ケアの実施。洗浄不十分時には要介助している。週1回ポリデント洗浄・毎日歯ブラシ用具の熱湯消毒にて清潔保持を行っている。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表の活用と、生活習慣から個々に合わせた介助を行っている。	一人ひとりのリズムを理解し、席に着く前、席を離れた時等、声かけのタイミングに配慮しながら支援している。トイレに暖房を設置し、気持ちよくスムーズな排泄が出来るよう努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多く進めている。確認できない時は下剤にて排便を促している。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	希望を伺いながら実施している。機嫌の浮き沈みのある方は表情を見ながら個々に合わせて対応している。	毎日希望される方は見られないが、個浴で一人ひとりに合わせ実施している。好まない場合は、声かけや仲の良い利用者同士一緒に入る等工夫している。男性の方には、湯船に浸かりながら髭を剃るなど寛げる入浴支援を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣を把握し生活支援を行っている。落ち着かない場合は事務所で過ごしコミュニケーションを図りながら誘導などを行っている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の処方に合わせて確実な内服を行っている。処方された説明書を確認し理解に努めている。バイタルチェックを毎日行い、副作用などの変化も観察し、禁止食品等も職員間で留意している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の出来る事を把握し認知レベルに合わせて、貼り絵、縫い物等得意分野を提供し、達成感を味わえる様に支援している。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望があれば、家族と連絡をとり外出できるよう支援している。また、毎年保育園・小学校訪問・地域運動会等へ参加を継続している。買い物同行やドライブを体調を見ながら実施している。	日頃、広い敷地内の散歩やホームの畑での収穫、時には自宅まで出かけたたり、ドライブや季節毎の外出を楽しんでいる。冬期間等は、ホーム内でレクリエーションやかるた取り、おやつ作りなどで気分転換できるよう取り組んでいる。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理できる部分は自己管理に任せている。自己管理時には、紛失の恐れがあることを家族に事前に説明している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればいつでも対応している。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温計を利用し適温になるように調整している。また、ちぎり絵を作成掲示し季節感を取り入れるようにしている。日当たりのよい部屋はカーテンで遮光・席を変える等して心地良く過ごせるよう工夫している。	ホールには皆で作った創作品や活動写真を掲示し利用者の生き活きた様子が感じられる。ソファが置かれ和室には掘りごたつを設置し、思い思いにゆったり過ごす事が出来る居場所作りをしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話室、居間、食堂と共有スペースがあり、それぞれ心地よいと思える場所にしている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来る人は実施している。認知などにて怪我の恐れがや混乱の原因になる場合は状況に応じた対応を行っている。家族との写真や自分で作った作品を貼り居心地良い空間づくりに努めている。季節に応じて衣類整理の支援。	家族の写真や寝具等、愛着のある物を持ち込みんで、ベッドでない方は布団をきちんとたたんだり、衣類整理や掃除などのできる事を一緒に行うなど、その人らしく落ち着いて過ごせる居室づくりに配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	男女問わず、洗濯物を干したり、食器拭き、調理の下準備など、できることを多く実施してもらっている。			